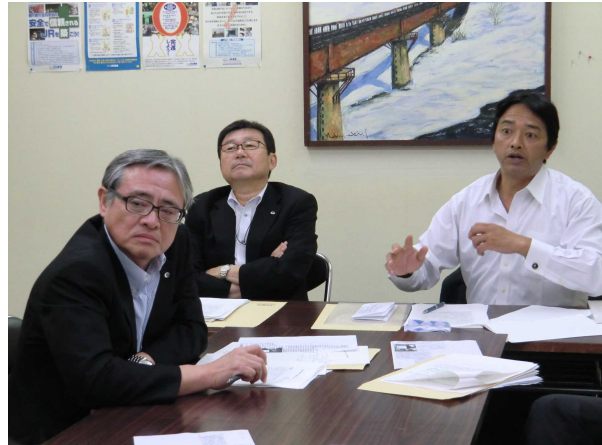


北海道地区における貨物鉄道の重要性を再認識！

～貨物鉄道モーダルシフトプロジェクトで 北海道地区における貨物実態視察を実施～

9月10日から11日にかけて、JR連合が主催する「貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト（以下、貨物PT）」が、北海道地区における貨物鉄道の実態等を把握すべく、札幌地区における貨物鉄道関係者との意見交換を実施するとともに、貨物現場視察を行った。今回の視察には同PT座長の榛葉賀津也参議院議員をはじめ、JR連合及び貨物鉄産労の構成員が参加した。



この間、貨物PTでは7回もの会合を重ね、本年6月に中間答申を取りまとめた。その折、今後の検討項目として、北海道地区における貨物鉄道の重要性を踏まえつつ、再来年春に開業予定となる北海道新幹線開業に伴い、青函トンネルが新幹線と在来線（貨物鉄道）との共用区間となる点に関してより一層の考察を加え、かかる政策を検討すべきとの追加答申が示された。そこで、机上での議論には限界があるとして、北海道地区における貨物鉄道実態を把握するとともに、関係者からのヒアリングを行うべく、第8回会合を北海道で開催する事となった。

まず、9月10日には、関係する単組である貨物鉄産労及びJR北労組からヒアリングを実施、青函共用区間に関わる課題について論点整理が行われた。北海道地区において初となる新幹線であり、特に道南地区において期待が大きいだけに、開業時点での140km/h走行からの一日も早い速度向上は道民の思いでもあるが、一方で、北海道物流の約4割を占める貨物鉄道の重要性も鑑みた措置が求められている。即ち、旅客鉄道と貨物鉄道の利害調整に際しては極めて困難を伴うが、安全性、とりわけ新幹線と貨物鉄道が同一軌道上を走行するという初の取り組みにおける安全性の確保がまず重要であることが確認され、その上に立って、貨物鉄道における現行の輸送量を維持するとともに、多くが生鮮食料品であるという貨物鉄道の特性を踏まえ、青函トンネルを貨物列車が通り抜ける時刻の十分な斟酌が必要との意見が相次いで出された。また、立て続けに貨物列車脱線事故が発生している江差線が北海道新幹線開業とともに第三セクター化する点に話が及び、当該路線の整備は今後も極めて重要であるとして、第三セクターになる前にJR北海道が同路線の整備を一層実施すべきであるとの意見も示された。

翌11日はJ R貨物北海道支社との意見交換及び札幌貨物ターミナル駅の視察を予定していたが、前日夜半からの札幌地区大雨の影響で現場に迷惑をかける視察は避けるべきとの判断から急遽視察を取りやめ、北海道支社との勉強会終了後同駅付近にある跨線橋より遠方からの視察を行った。勉強会では、北海道地区における貨物鉄道物流の実態や抱える課題について共有化が図られた。特に農産物輸送を中心とする同地区において片荷輸送の解消がポイントであり、その解消に向けて現在どのような取り組みがなされているか伺うことができた。と同時に、青函トンネルが北海道物流においてどれほど重要性を帯びているかについても改めて理解することができた。

その後行われた跨線橋からの札幌貨物ターミナル駅視察では、上述通り大雨の影響を斟酌し同駅施設内での視察は行わなかったものの、同駅を一望できる跨線橋からの視察により、同駅が北海道地区の物流の集約箇所でありまさに拠点であること、その一方で設備や車両等が相当老朽化している実態が十分に把握できた。また、その後実務担当者から要望等に関わる意見交換を展開し、課題や問題点の集約を図ったところである。

同P Tではこの間、貨物鉄道のモーダルシフトをより一層展開すべく、貨物鉄道の積極活用に資する方策の検討を行うとともに、貨物鉄道の将来像を俯瞰した検討を図るべく取り組みを展開している。今次北海道地区における意見交換及び視察で得られた知見等も含め、今後最終答申を策定するにあたり、検討課題各々についてより議論を深めていくこととしたい。

